

健育会グループ本部から年頭所感を発信しました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



2021年（令和3）年1月4日（月）、健育会グループの仕事始めにあたり、本部からオンライン会議ソフトを使って全病院・施設に年頭所感を発信しました。当日は、毎年恒例の神社参拝や幹部職員へ訓示も行なったので、それも含めて報告します。

昨年同様、年頭所感の発信の前に、健育会グループ本部の幹部と一緒に東京都板橋区の城山熊野神社を参拝してきました。同神社に祭られているのは、厄除けの神です。グループ全病院・施設の業務の安全や職員の成長、医療を通じた地域貢献はもちろん、1日も早いコロナ禍の収束を祈願してきました。



その後、今年は全てオンラインで、本部から2021年頭所感を発信しました。



昨年からCOVID-19が日本中に広がっている中で、第1波、第2波は皆さんの努力によって乗り切ることができました。11月末の第3四半期終了時点で健育会グループは、素晴らしい数字を達成しています。これもひとえに皆さんの努力のおかげだと思っています。

しかし12月に入り、ねりま健育会病院で大規模クラスターが発生しました。下旬には、石川島記念病院でPCR検査陽性の職員や患者さんが出ており、今まさにクラスター発生かどうかという予断を許さない状況になっています。両院共、年末年始に職員を総動員して、感染拡大を防ぐための対応にあたりました。両院の職員も含めた健育会グループ全病院・施設の皆さんの日々の努力に対して、私は本当に感謝すると同時に、誇りに思っています。

今年も厳しい状況が予想されますが、One Teamであらゆる局面に素早く対応することが、大惨事を未然に防ぐことにつながります。クラスターが発生してしまうと治療やリハビリができなくなり、患者さんやご家族に迷惑をお掛けすることになり、残った職員の負担も増えます。さらに社会の不安が高まることにもなってしまいます。それを防ぐためには、今まで以上に固いチームワークで、昨年以上に強いOne Teamにならなければいけません。

とはいえ、長期間にわたって集中力を維持することは大変です。疲れがたまって、いつの間にか集中力が切れしまうこともあるでしょう。1年以上集中力を保つためには、皆さんに心のゆとりも必要だと思います。私は、職場環境を見直し、整備して、忙しい中でも皆さんが心のゆとりを持てるように、1年間取り組みたいと考えています。守っているだけでは、我々が掲げるビジョンを達成できません。少しずつでも進み続けることが大切です。今年は丑年です。牛のように、脇目も振らずゆっくりと進んでいく。そうした姿勢で、健育会グループは今年1年間に臨みます。皆さん、一緒に進んでいきましょう。



年頭所感に続いて、各病院・施設の幹部職員に次のような訓示を行いました。12月はクラスターが発生した影響で、ねりま健育会病院や石川島記念病院だけでなく、医療法人社団健育会全体としても大変厳しい数字になる見込みです。引き続き感染対策を十分に取りながらも、もう少し予算に近い数字を出し、3月の決算を迎えたいと思います。そのためにも、前述したようにより強固なチームワークでOne Teamになることが大事です。良いチームには、情報の共有が欠かせません。

“知るべき情報を知るべき人が知る。”小さなチームから、施設全体、そしてグループ全体と、しっかりと情報共有をできている強いチームを作らなければ、現在の困難な状況を乗り越えるのは難しいと思います。

無駄を省いたスリムな組織で情報を共有し、機敏に動くことによって、感染を未然に防ぎながら病床の稼働を維持できるように部下を指導してください。今年は、丑年でもあり、牛のようにゆっくりと少しずつ健育会グループが発展できればと思っています。そしてグループ全職員が力を合わせ、2021年は“得意淡然 失意泰然”の精神で乗り越えましょう。

今年も1年間よろしくお祈りします。

